



2022年10月12日

日本鉄道労働組合連合会

交運労協第38回定期総会

**キーワーカーとしての矜持を胸に、  
持続可能な産業の構築を目指す！**

交運労協は10月4日、「連携・協働・共創 キーワーカーとしての矜持を胸に、持続可能な交通運輸・観光サービス産業を構築しよう！」をスローガンに掲げ、第38回定期総会を開催した。

総会には来賓や総会委員をはじめ総勢約130人が参加。JR連合からは荻山市朗会長が副議長、慶島譲治特別執行委員が事務局長、政所大祐事務局長が幹事として参画したほか、執行部及び各単組から9名が総会委員や地方代表者として出席した。



冒頭、挨拶に立った住野敏彦議長は「コロナ禍の約3年間、交運労協は事業存続や安定雇用を訴え続けてきた。最近では水際対策の緩和や全国旅行支援の開始など明るい話題も多くなってきたが、他産業と比べ回復が遅れていることに加え、燃料費の高騰により厳しさは増している。産業の魅力向上を図るべく、国とも連携し交運労協一丸となって取り組みを強化していきたい」と決意を述べた。

議事では、事務局から2023年度活動方針（案）等の議案が提起され、質疑答弁が行われた。このうち、JR連合を代表して田中佑佳総会委員（JR西労組教育・情宣部長）より、この間の交運労協の取り組みや成果に感謝の意を伝えるとともに、①長期化するコロナ禍への対応（雇用に係る施策の継続・拡充、ビジネス需要の増加に向けた政策、燃料費高騰への対応）、②持続可能な地域公共交通の実現に向けた取り組み（ポリシーミックスによる省庁横断的な財源の確保）、③カスタマーハラスメント防止に向けた取り組み（被害者を守る法律や制度の整備）、④交通運輸・観光サービス産業における女性活躍推進への支援について発言した。慶島事務局長の答弁を経てすべての議案が満場一致で承認され、役員改選では荻山副議長、慶島事務局長、政所幹事が再任された。最後に、住野議長による団結がんばろうで定期総会を締めくくった。

